

令和7年度 相模原市 英語教育改善プラン

目標

新しい時代に活躍できる力の育成
互いの考えを伝え合い、理解し合える英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教師含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、英語の授業が大切だと思う児童の割合が増加している。
(R5:90.8%⇒R6:92.0%)
②外国語の授業づくりに関する研修で提出された学習指導案の内容から、言語活動を通じた指導の質の高まりが見られる。

未だ改善が必要な点

- ①英語の勉強が好きであると思う児童の割合に課題が見られる。
(参考：R6 68.6%)
②英語の授業内容の分かりやすさについて課題が見られる。児童にとって分かりやすい授業づくりが必要であり、言語活動のより一層の充実が求められる。
(参考：R6 77.1%)

2. 要因分析

研修や研究会等において、市内教師等の授業に関する好事例を発信したことで、言語活動を通じた指導が一層充実したと思われる。そのことが教師の指導力向上及び児童の英語の大切さの理解にもつながっていると考えられる。また、研修等において、小中の教師同士が情報交換や協議をする機会を設けたことも、好影響を与えていると思われる。

研修等を通して教師の指導力は向上しているものの、児童の実態に合わせた指導の工夫や、具体的な場面設定等に関して、十分に理解が深まっているとは言えない。また教師の英語力向上のために文部科学省のオンライン研修の機会等を活用しているものの、採用段階で英語力の高い教師を確保することも、継続が必要であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①言語活動のさらなる充実

言語活動のさらなる充実のために、研修内容や研究会における伝達内容等をより一層充実させる。また、研究推進校事業において、推進校による研究内容と授業実践を広く周知する。

②小中連携のためのCan-Doリストのさらなる活用

本市が推進するキャリア教育における「小中一貫の日」等を活用し、英語教育においても、より中学校との連携を深めていく。また、研修においても小中の教師が同じ中学校区での協議を重ね、児童生徒の実態に鑑みたCan-Doリストを共有し、小中一貫した英語教育の推進を図る。さらにそのような取組の中で、児童生徒が分かりやすいと思える指導方法についても情報共有するように助言する。

参考URL：Can-Doリストに関わる研究

https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20230707165139.pdf

参考URL：さがみはらスタンダードCan-Doリスト

https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20230707145941.pdf

③一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組の継続

- ・1次試験における加点：小学校教諭の区分で受検し、一定の英語力、資格等を有するものに1次試験で加点し、受験者の確保に努める。
- ・併願制度を実施：大学推薦者は併願制度を利用することができる。第1希望中学英語、第2希望小学校が可能となる。加点制度に併願制度を追加することで選択肢を広げ、受験者確保に努める

令和 7 年度 相模原市 英語教育改善プラン

新しい時代に活躍できる力の育成

互いの考えを伝え合い、理解し合える英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

中学校 3 年次に CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合の目標値

R6 : 50.3% (実績値) R7 : 53.8% R8 : 55.0% R9 : 56.3% (第 2 次相模原市教育振興計画の成果指標に基づく)

目標

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALT の参画 ICT の活用 AI の活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AI を除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① R6 全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「聞くこと」「読むこと」の言語活動が充実してきていることが読み取られる。
聞 (R5:77.3%⇒R6:79.5%)
読 (R5:81.2%⇒R6:82.5%)

② CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が 50% 以上を保持している。
(R5 50.1% R6 50.3%)

未だ改善が必要な点

① R6 全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「話すこと（やり取り）」の言語活動を行う機会を増やし、話す力を高める必要がある。
(R6:65.9%)

② ALT が授業に参画する際に、生徒との実際のコミュニケーションの場を増やす必要がある。

2. 要因分析

令和 5 年度全国学力・学習状況調査で、必要な情報を読み取ることや、社会的な話題に関して聞いたことについて考えとその理由を話すことに課題があることを受け、研修や研究会等において、「聞くこと」「読むこと」に関する好事例を発信した。このことで、言語活動を通じた指導が一層充実したと思われる。また、生徒の英語力にもつながっていると考えられる。

言語活動において、ALT によるデモンストレーションや実際のやり取りの相手として活躍する場面はある程度見られる。しかし、改善が必要な点①のとおり、「話すこと（やり取り）」の機会が十分ではないことから、生徒同士だけでなく、ALT と実際にやり取り等をする機会も増やしていく必要がある。そのためには、ALT の参画場面に関する指導助言を充実させていく必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

① 言語活動のさらなる充実

「聞くこと」「読むこと」の言語活動をさらに促進するとともに、「話すこと（やり取り）」の言語活動の機会を増やし、話す力を高める。そのために、研修内容や研究会における伝達内容などを一層充実させる。研修では「研修観の転換」を意識し、教師が主体的に学び、課題を解決することを通して授業力を高めることができるようにする。ALT の参画に関する好事例も積極的に発信し、実際のコミュニケーションの場を増やしていく。

② 小中連携の推進と Can-Do リストのさらなる活用

本市が推進するキャリア教育における「小中一貫の日」等を活用し、英語教育においても、より小学校との連携を深めていく。その中で、ALT の参画場面についても小中の教師間で事例を共有するように助言する。また令和 7 年度より、本市の研究推進事業において小学校 1 校が外国語の授業に関する研究推進校となっている。中学校の教師も本校の取組から学ぶことができるような体制を確立する。

さらに、研修においても小中の教師が同じ中学校区での協議を重ね、目の前の児童生徒の実態に鑑みた Can-Do リストを共有し、小中一貫した英語教育の推進を図る。

参考 URL : Can-Do リストに関わる研究

https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20230707165139.pdf

参考 URL : さがみはらスタンダード Can-Do リスト

https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20230707145941.pdf

目標達成状況一覧表

令和7年度様式(様式2)

相模原市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	51.3	50.1	52.5	50.3	53.8		55.0		56.3		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	84	75.0	84		86		88		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	91.7	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	75.0	85		90		95		100	
		達成状況の把握(%)	100	83.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	46	48.6	48	48.2	50		52		54		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	82	64.8	84		86		88		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	90.1	100		100		100		100
		公表(%)	52	56.3	64		76		88		100
		達成状況の把握(%)	100	71.8	100		100		100		100